

西部小学校を活用した義務教育学校について一緒に考える会 まとめ

1 実施日時

- (1) 令和6年9月29日(日) 9時～10時30分 希望ヶ丘会館
- (2) 令和6年10月3日(木) 18時30分～20時 農民研修センター
- (3) 令和6年10月5日(土) 18時30分～20時 農民研修センター

2 実施方法

- ・教育委員会から義務教育学校についての説明
- ・グループワーク(グループ内での意見交換、疑問点の共有)
- ・グループ発表

3 質疑応答内容および回答

- (1) 令和6年9月29日(日) 希望ヶ丘会館

出席者：14名、教育委員会：吉田部長、鹿野理事、永坂参事、外2名

グループ内での意見及び質疑内容		回答及び市の考え
1	開校時が受験期と重なる生徒にとっては、環境の変化などで不安になったり、デメリットに働くことが多くなるのではないか。	環境の変化や不安が受験生の進路結果に影響してしまうことは絶対にあってはならないことであり、開校前の準備段階から、これまで以上に、丁寧かつ計画的な進路指導や教育支援を進めていく必要があると考えております。 また、前期課程(小学校)の段階から、後期課程(中学校)教員による進路指導を充実させていくなどの工夫も考えられます。
2	現在の小学校・中学校の体制(小中一貫教育)の中でも、不安に思うことや課題があるのに、義務教育学校になることで解消されるのか？何も変わらないように感じる。	現在の教育制度や社会情勢(学級編成や教職員の配置基準、不登校やいじめ問題、特別な支援が必要な児童生徒等の増加、子どもを取り巻く複雑化・多様化する問題、少子高齢化や急速に発展する情報社会、教師の多忙化、教師不足など)の影響で、容易には解決できない課題をいくつも抱えている現状となっております。 本市で導入している小中一貫教育も、それらの課題を解決するために有効な手立てであるとの見方から進めているところであり、発展形である「施設一体型の義務教育学校」にすることで、その取組が一層強化され、子どもたちの学びがさらによいものになっていくと考えております。 また、そうなるように子ども・保護者・地域のみなさまと一緒に考え協議し、「子どもが安心して

- ①学校に行けない児童生徒が増えているが、対応可能な体制になるのか？
- ②生活面で支援が必要な子どもが多くなっているため、一人の教師で授業を行うのが困難になっている。学級編成の基準が変わらないのであれば、6年間だろうが9年間だろうが変わらないのでは？
- ③多くの教員による見守りは無理。今でも、先生の負担が大きいのではないか？

学ぶことができる学校づくりを進めていく必要があると考えております。

- ①②③ 不登校対応については、現在でも大きな課題です。授業に入らない空きがある先生が増えることで、特に小学校では、これまで以上に先生のかかわりや支援を充実させることができます。また、普通学級に存在する特別な支援を必要とする児童生徒へのサポートについても、現在配置されている特別支援教育支援員やフリーの先生による体制づくりにより、充実が図られると考えます。さらに、養護教諭や心の教室相談員もそれぞれ2名体制になることから、これまでよりも手厚いサポートが可能になると考えてあります。

**現行の西部小・中学校の教職員体制
と義務教育学校での体制のちがい**

【現小・中学校】

【義務教育学校】

	小学 校	中学 校	義務教育 学校
普通学級 担任	6名	4名	10名
担任外・ 副担任	3名	5名	フリーの先生が 8名
特別支援学級児 童生徒数	12 名	6名	18名
特別支援学級 担当教師	4名	4名	18名の子どもを 8名 で

- ④すでに高学年で教科担任制を行っているため、メリットを感じないが。そもそも先生個人の質が大事ではないか？

- ④人的体制が確保できることや、さらに中学校教師の力を借りることが容易になることから、子どもの発達段階や実態に応じて、教科担任制を他学年や他教科へ拡大することが可能となります。

- ⑤9年間同じ建物で過ごすことは、子どもの精神上、安心ではないと思う。

- ⑤先進的に義務教育学校化した学校・地域においても、ご指摘のような同様の不安があったようですが、校舎内の学年配置や動線の工夫、中学生と低学年が交流する場や行事の設定、1学級を2つに分けての縦割り班での活動の充実等々によって、逆に、中学生が周りの安全や事故に気を付けるようになった。見本になるような行動を心がけるようになった。中学生が1・2年生や弱い者に

○学級替えがなく、9年間同じ学級で生活することに不安を感じる。

○連続的・独裁的なリーダーが生まれるのでは？

○多感な中学生の問題行動（男女交際・暴力的等）を小学生がいつも目にする状況は悪影響で

	<p>しかないのでは？</p> <p>○体格差による事故が心配。</p> <p>○今でも、低学年の子が泣き叫んだり、教室外を歩き回ったりする状況がある。受験生が学習に集中できなくなるのではないか？</p> <p>○上下関係が学べずに高校へ進むことになるのではないか？</p> <p>⑥教師と相性が悪かった場合、9年間という長いスパンが不安。「卒業まで我慢」ができなくなる。</p>	<p>対して優しくできるようになった。低学年が高学年・中学生に甘えたり、近づいていくようになった。顔見知りになることで学校外でも一緒に遊んだり世話をしてくれることがあるようになった。先輩をまねして優しくなろうとする下級生が増えた。先輩としての自覚が生まれた。みんなの笑顔が増えた。など、よい効果の方が多く報告されています。</p> <p>初めて経験する子どもたちや保護者にとっては、大きな不安となることは確かでありますので、これからも、具体的な取組や対応について積極的に発信しながら、不安を取り除いていく必要があると考えております。</p> <p>⑥教師との相性については、現状の教育活動の中でも起こりうる課題であります。9年間という長いスパンになることで、我慢の限界、辛さが増幅するなどの指摘があることも理解しています。現在でもそうですが、相性が悪いからとあきらめるのではなく、学校と相談しながら何ができるかを一緒に考えていくこと、よりよいコミュニケーションの取り方等を学んでいくこと、何でも話せる先生や大人を見つけていくことなど、多くの先生がいるからこそその対応ができるように支援する必要がありと考えております。</p>
3	<p>親（保護者）も9年間一緒になることで、PTAなどでトラブルが起きた場合が不安である。</p>	<p>小・中学校の保護者同士が今以上に顔見知りになることで、トラブルは少なくなるのではないかと考えます。PTA活動を一つの組織でどのように運営していくとよいのかを協議しながら、子どもたちのための組織としての活性化を図っていく必要があります。</p>
4	<p>中学生が小学生に性的ないじめをしたというニュースを見た。思春期の興味の対象が弱い小学生に向けられてしまうことがあるかもしれない。そのための指導は？</p>	<p>小中学校が一つになることでの問題というよりは、社会現象の中での犯罪の低年齢化が根底にあると考えられます。子どもたちの発達が早期化し、心身の発達がともに不安定な思春期が、中学生の時期から小学5・6年生まで早まっていることを考えると、小中9年間を見通した中で、性（保健）教育や人権・道徳教育を充実させていくことが重要になります。義務教育学校で2人の養護教</p>

	<p>諭や心の教室相談員等を活用したり、中学生（大人への過渡期）の姿を間近に見て感じたり、弱い小学生に優しく接する経験をさせることで、このような事案の防止につなげていきたいと考えております。</p>
--	---

(2) 令和6年10月3日（木）農民研修センター

出席者：7名、教育委員会：鹿野理事、永坂参事、外2名

グループ内での意見及び質疑内容		回答及び市の考え
1	小学生の時期に獲得するもの、中学生の時期に獲得するものが、その時に体験できずに大人になっていくのでは？	子どもたちには、小学生、中学生、そしてその年齢や発達段階に応じて、獲得すべき学習や経験等があります。学校が一つになるからと、単純に行事や教育活動を精選・廃止するのではなく、必要な教育活動は残し、合同で進めた方がよい行事であれば一緒に行うなど、より効果的な活動となるよう、子どもたちにとって必要な学びを保障した教育課程を展開する必要があると考えております。
2	小学校卒業式、中学校入学式が、市内の他校では実施しているのに、西部のみ無くなってしまうのは、マイナスでしかない。私立中学や転校する生徒にとっても、切り替えができない。小学校卒業という目標、達成感が失われることになるのでは？	子どもたちにとって節目となる小学校卒業式・中学校入学式は、目標・達成感を得るために欠かせない行事であります。義務教育学校では、「前期課程修了式」「後期課程始業式」あるいは「立志式」のような形で実施し、他校と同じようにそのねらいが達成されるようにしなければなりません。他校との差をあまり感じないように、子どもを交えた議論を重ねながら、子どもや保護者にとって区切りとなる、思い出に残るような行事を創る必要があると考えております。
3	運動会や学芸会などの行事は、どのように実施するのか？	基本、小学校での運動会・学芸会（学習発表会）、中学校での体育大会・学校祭は、無くすことは考えていません。これまでと同様実施していきますが、そのやり方や時期、参加対象学年などについては、検討していかなければならないと考えます。例えば、学芸会には、7年生（中1）まで参加する。中学校の体育大会に5年生以上も参加する。など様々な形がありますので、子どもの意見を取り入れながら、いい方法を探していきたいと考えております。
4	学年段階の区切りが、西部小中では「4-3-2制」が望ましいとしているが、具体	全国的に「4-3-2制」で進める学校が圧倒的に多いこと（多くの効果報告されている）が、大きな

<p>的な根拠は？</p>	<p>理由になりますが、心身の発達の早期化の背景から、以下のような点が挙げられます。</p> <p>○1～4年生は、遊び・集団活動から学ぶ善悪の判断や、規範意識が芽生える大切な時期であり、個々に応じた細やかな支援の徹底が必要である。</p> <p>○5・6年生で、これまでの中学生と同程度くらいの早熟が見られるようになっている。学習内容も中学レベルの考え方が必要になる程度まで難しくなっていることから、教科担任制など、より中学校に近い学習形態が求められる。</p> <p>○8・9（中2・3）年生は、高校入試を控え、学習や進路に向かう集中期間として学習環境を充実させる必要がある。</p>
---------------	--

(3) 令和6年10月5日（土）農民研修センター

出席者：10名、教育委員会：鹿野理事、永坂参事、外2名

グループ内での意見及び質疑内容	回答及び市の考え
<p>1 単純に小・中学校を一緒にするだけでなく、西部地区としての特徴を生み出すことが大事では？</p>	<p>ご指摘の通り、小・中学校を一つの義務教育学校にすることで、これまでの小中一貫教育をさらに進化させ、子どもの学びの質を上げていくことが重要になります。と同時に、これまで西部地区で行われてきた防災学習やソクラテス・ミーティングなど地域の様々な学校支援、コミュニティ・スクールの充実等々、西部地区での素晴らしい取組を整理して継続・発展させながら、西部の義務教育学校の特徴を生み出していきたいと考えています。</p>
<p>2 西部小の、西部中のよい点を活かすために、どう考えているのか？</p>	<p>学校が一つになっても、それぞれのよい点については残していきながら、さらに相乗効果が生まれるよう、これまでの取組を活かした教育課程を編成していきます。西部地区の子どもたちの素直・優しい・思いやり・あいさつ・夢・地域愛・主体性・企画力等、これまで地域全体で行ってきた活動で培ってきたいい面をさらに伸ばすよう、家庭・地域・学校が連携・協働した教育活動を展開していきます。</p>
<p>3 他地区から子どもが転校してくるような学校づくりをしてほしい。</p>	<p>西部地区の子どもたちが、義務教育学校になってよかったと実感できる学校づくりを進めていくことが大事になります。その上で、子どもたちに確かな学力や人間性を身に付ける効果的な教育活動を展</p>

		開し、他地区の子ども・保護者が「西部で学ばせたい」と思うような、魅力ある学校にしていきたいと考えます。また、西部地区の義務教育学校のよさを、広く発信していきたいとも考えています。
4	現在、部活動が4～5個しかないので、小中合同で実施することで、少し充実する可能性もあるのか？	現在、生徒数や教員の部活動指導の難しさ（指導経験・人員体制等）等により、現状の設置が精一杯という状況になっています。子どもの意見を大切にしながら、国が進めている部活動の地域移行との関連も踏まえ、部活動を充実していく方向で検討していきたいと考えます。
5	現段階で義務教育学校の話が出るのは早い。他地区で義務教育学校を卒業した子どもたちがどんな大人になっているのか、社会に出て影響はないのか等を検証してからのほうがよいのではないかと？	<p>義務教育学校を卒業した子どもたちの社会に出たからの影響等については、データが全くなく、検証することはできませんが、現行の小・中学校と比較しても何ら変わることなく、逆にプラスに働いている部分の方があるとの印象を受けているところです。</p> <p>西部地区においては、少人数の中学校から高校へ進学した際に、生徒数の多さに圧倒され、その対応が難しかったとの声を聞いているところであり、その対策としても、義務教育学校となって集団規模を大きくすることで解決が図られるものと考えているところです。また、地域の支援により、子どもたちが子どもたち自身で企画・運営する活動を数多く行っており、子どもの企画力、主体性や協働性、挑戦する力や社会性が養われていることも、社会に出たからの力となっていますので、その取組も大事にしていきたいと考えています。</p> <p>西部地区における義務教育学校化については、小中一貫教育の進み具合や子どもの実態、教育環境、地域の活性化等様々な条件を考えると、適切な時期であると判断しているところです。</p>